

**フィリピン台風30号 (Yolanda) に対する  
国際緊急共同研究・調査支援プログラム (J-RAPID)**

1. 研究課題名：「フィリピン・レイテ島および他地域における、災害に対する学校の準備、対応、復興能力強化に関する研究」
2. 研究期間：平成26年4月～平成27年4月
3. 支援額： 総額 3,310,000 円
4. 主な参加研究者名：  
日本側（研究代表者を含め6名までを記載）

	氏名	所属	役職
研究代表者	小林潤	琉球大学	教授
研究者	高橋謙造	帝京大学	准教授
研究者	児玉光也	横浜市立大学	特任助教
研究者	高倉実	琉球大学	教授
研究者	平田美樹	琉球大学	博士課程
研究期間中の全参加研究者数		5名	

相手側（研究代表者を含め6名までを記載）

	氏名	所属	役職
研究代表者	Ernesto R., Jr Gregorio	Department of Health Promotion, C ollege of Public Health, UP, Mani la	Head
研究者	Romeo R. Quizon	College of Public Health, UP, Man ila	Dean
研究者	Maylin C. Palati no	Department of Epidemiology and Bi ostatistics	Head
研究者	Salvador Destura	School of Health Sciencies, UP in Palo, Leyte	Dean
研究者	EmmanuelJefferso nGumasing	Department of Health Promotion, C ollege of Public Health, UP, Mani la	Research Assis tant
研究期間中の全参加研究者数		5名	

5. 研究調査の目的

学校での災害対策に関する政策と、台風ヨランダの被災地域においてその政策の実施がどうであったかを分析して、政策の効果的実施にはどのような要因が有効であったか、またどのような要因がその実施を阻害してしまったかを分析した。

これによってフィリピンでの大規模な被災の経験から、アジア地域の開発途上国において有効に災害対策の政策を末端まで行き届かせる方策を導きだすことを目的とした。

6. 研究・交流の成果

6-1 研究調査の成果

政策を中央レベルからその実施について被災地の住民レベルまで分析したことによって、以下の4点が政策実施には重要な要素であることが明らかになった。

\*各行政レベルでのドナー調整

\*学校を含む各レベルのチャンピオン（強力なリーダー）とリーダーシップ

\*実際に襲ってくる災害に対応した避難訓練の実施

(台風被害の可能性が高い地域で、火事や火山の対応がされておりマニラ都市圏を想定したカリキュラムの策定がおこなわれていた。)

\*準備期に対する対応強化

(政策的に予算は災害対応準備にも使用するべきと書かれていたが、実際には災害対応に殆ど使用されてしまっていた)

以上の研究結果から、政策が実際にいきとどくための対応策を提言し、フィリピンだけでなく東南アジア各国の政策実施者に還元しアジア各国で取り組むことについて合意をえてきている。特に学校教育において、地球温暖化対策を含んだ環境教育導入の必要はいわれているが、実際のカリキュラムでは強化されていない国が多い。このため本研究班の実施母体である政策シンクタンク（国際学校保健コンソーシャム）のネットワークを生かして、世界的にこの点を強化すべきであること提言している。その成果の一つとして国連機関等他の国際開発パートナーが合意の上で、5月に行われた国際教育会議（韓国）で環境教育の重要性を盛り込んだステートメントをだすことに成功している。

地球の持続的発展を鑑みた新しい国連開発目標（SDGs）が今年打ち出されるが、これを受けて学校保健の国際戦略も見直しが進展しており、今後も多々な国際的宣言や戦略が打ち出される予定である。研究者らは本研究成果を還元して、災害準備の必要性を強調した環境教育・災害教育の必要性を説明しつつけていく予定である。

6-2 人的交流の成果

フィリピンを始め、アジア諸国とはイコールパートナーとしての研究や事業の実施が求められている。今回、フィリピン側研究者をアジアの国際的ネットワークに巻き込むことによって開発途上国を含んだアジアからの意見集約をつくることに成功した。

また日本・フィリピンの大学院生・学生レベルの交流も促進し、次世代をになう人材育成にも寄与できた。

7. 本研究調査による主な論文発表・主要学会での発表・特許出願、その他成果物（例：提言書、マニュアル、プログラム）

発表/ 論文/ 特許/ 成果 物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・口頭発表の場合：発表者名、タイトル、会議名</li> <li>・論文の場合： 著者名、タイトル、掲載誌名、巻、号、ページ、発行年、DOI</li> <li>・特許の場合： 知的財産権の種類、発明等の名称、出願国、出願日、出願番号、出願人、発明者等</li> <li>・その他成果物</li> </ul>	特記 事項	
国際 会議 ステ ート メント	Joint statement from the Coordinating Group of the professionals and organizations involved in promoting school health and development through the global framework FRESH.		